

長祿三年四月廿七日

六月。長十郎信連、珠洲郡琴江院に、田地を寄進す。

【琴江院文書】 珠洲郡

九二四

御屋形様河内御出陳之時、清水寺に爲御祈念之、能州珠々郡方上保淡津村琴江院寄進田地之事。

合貳百刈者

右彼田地者、自上様被付仰候之間、長十郎信連、永代上

役共、識公事皆免祈寄進申處實也。遍天長地久、御願圓滿

心信之大檀那穩、息災延命、子孫繁昌故也。依爲後日寄

進狀如件。

長十郎

長祿三年六月 日

信連 在判

琴江院

八月廿九日。幕府、珠洲郡正院郷伏見等の地を吉見家仲代に交付せしむ。

【吉見文書】

九二五

能登國正院郷内伏見・小泊・毛壽・蛸浦等事、早任今月十六日御判之旨、可被沙汰付吉見右馬頭家仲代之由、所被仰下也。仍執達如件。

長祿三年八月廿九日

【細川勝元】 右京大夫 在判

畠山修理大夫入道殿

(享徳三年十二月廿九日の條参照。)

長祿四年 庚辰

寛正元年 十二月廿一日 紀元二二二〇 改元

七月廿四日、柳町中務入道永音、大和東大寺に、大佛常燈料として能美郡山上郷清水惣社神主職の内を寄進す。

【東大寺文書】 大和

九二六

加賀國山上郷清水惣社神主職寄進狀

奉寄附 大佛殿燈油料事

合壹所者加賀國山上郷内清水惣社神主職

右件下地者、永音年來相傳領地、當知行無相違者也。雖然且爲資二親出離得脱、且爲祈自身滅罪生善、奉寄進常燈料所者也。仍寄進狀如件。

長祿四年 庚辰 七月廿四日

柳町中務入道

沙彌永音 在判

【東大寺文書】

九二七

加賀國清水惣社神主職寄進狀 長祿三辰

加賀國山上郷清水惣社神主職之内大佛殿常燈祈拾石寄進狀。於此年貢者、毎年任彼所和市賣立之、花藏坊大夫得齋盛重沙汰而執次之、可社納之者也。

長祿三年 庚辰 七月廿四日

七月三十日。後花園天皇、中院通秀に、江沼郡額田莊・加納八田莊等を安堵せしめ給ふ。

【中院文書】

九二八

加賀國額田莊并加納八田莊、任當知行之旨、領掌不可有相違候。同庄内運動僧都押領分事、今度爲武家被返付

之由被聞食了。可令全一圓之知行給之旨、天氣所候也。仍上啓如件。

長祿四年七月卅日

【勸修寺經茂】 右大辨 在判

謹上 中院前中納言殿

閏九月十一日。幕府、山城神護寺に、石川郡豊田保・中興保を安堵せしむ。

【伺事記録紙背文書】

九二九

清水坂神護寺領、加賀國豊田・中興兩保除長徳院事、早任當知行之旨、寺家可令全直務之由所被仰下也。仍執達如件。

長祿四年 閏九月十一日

右衛門尉 加賀守

當寺住持

閏九月。石川郡河内莊惣領藤原政宗、祇陀寺に、その寺領を直務せしむ。

【祇陀寺文書】

九三〇

加賀國河内庄祇陀寺領所々事、任會祖父貞宗之寄進狀置